



報道発表資料の配付日時 10月3日(金) 14時00分

発表項目 (行事名)	令和7年度 新興感染症患者移送訓練		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>管内で新興感染症が発生した際に医療機関、関係機関、保健所職員が適切かつ安全に対応できるよう、患者の症状や感染性に応じた適切な移送方法・役割分担・連絡体制等について訓練を行うことで感染症発生時における対応力の向上を図ることを目的に患者の移送訓練を実施する。</p> <p>1 開催概要</p> <p>(1) 日時 令和7年10月8日(水) 13:30~15:30 ※当日、小雨程度なら実施</p> <p>(2) 場所 市立稚内病院(稚内市中央4丁目11番6号)、利尻島国保中央病院(利尻郡利尻町杓形字緑町11番地) ※Zoomによるオンライン配信</p> <p>(3) 主催 北海道宗谷総合振興局保健環境部保健行政室(北海道稚内保健所) 市立稚内病院</p> <p>(4) 参集範囲 宗谷医師会、医療機関、行政機関、各関係機関(消防、小樽検疫所稚内出張所、北海道エアポート株式会社稚内空港事業所)</p> <p>2 内容(会議の流れ)</p> <p>13:30~13:35 開会、挨拶 13:35~14:00 訓練の目的、DIFフード取扱等の説明 14:00~15:30 移送訓練(利尻島国保中央病院から杓形港まで、その後、稚内港から市立稚内病院まで) (14:20~14:50頃 市立稚内病院地下で患者受け入れ)</p>		
参考	令和6年3月に策定された「北海道感染症予防計画」に基づき、平時からの関係機関の連携と移送体制の確保のための訓練		
報道(取材)に当たってのお願い	<p>なお、オンライン(Zoom)でも視聴(取材)が可能となっておりますので、ご希望の方は10月7日までに下記連絡先までお申し込みください。お申し込みいただいた方に対し、視聴用のURLを送付します。</p> <p>撮影は、市立稚内病院の地下搬入口から地下エレベーター前までは可能です。(患者様が写らないよう留意願います。)</p>		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所)	
担当 (連絡先)	保健環境部保健行政室(稚内保健所) 健康推進課長 川崎 真生 TEL ダイヤルイン 0162-33-3702 (内線3630)		

感染症患者隔離搬送用資器材

DIFフード取扱説明書

2022 vers.1



※防護服（BPIキット）は別売りです



[製造販売元]

株式会社ノルメカエイシア

埼玉県越谷市流通団地3-1-13

TEL: 048-967-5372 FAX: 048-967-5378 Email : sales@normeca-asia.jp

1. はじめに

DIFフードは、フード内を陽圧に保ち、感染症患者を搬送する医療スタッフの安全（OSHAに準拠した二次感染防止）を確保します。また、フード内を陰圧にすることにより歩行可能な感染症患者の搬送にも利用いただけます。

【使用時の注意事項】

- ① スタッフは、一体型の防護服を着用してからDIFフードを着用するようにしてください。
- ② 使用後の廃棄方法(P4)をよく読み、事前に準備をしてください。
- ③ 耐用年数は約5年です。保管の際は、高温・多湿はさけてください。長期保管後に使用される際には、必ず全体の劣化状況をご確認ください。

参考商品：BPI KIT

(内容品)

- ・カバーオール
- ・N95マスク
- ・インナー手袋
- ・アウター手袋
- ・ゴーグル
- ・シューズカバー



2. 構成品と名称

①	DIFフード（ホース付）	1ヶ
②	送排気ユニット（ULPAフィルター付）	1台
③	単2乾電池	8本
④	腰ベルト	1本

【DIFフード仕様】

寸法 W350 x H700mm / チューブ1800mm
重量 約420g (チューブ含む)



3. 使用方法

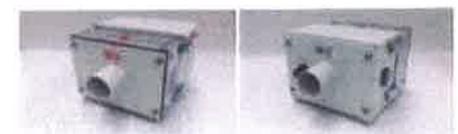
- (1) 送排気ユニットのふたをあけて、同梱されている単2乾電池8本を、電池ボックスに取り付けます。

※電池ボックスは、上下2ヶ所、各4本の電池が入るように設計されています。
詳しい取扱方法は、P4「4. 送排気ユニット取扱方法」を御参照ください。

- (2) 蓋を閉じ、付属の腰ベルトをベルト通しに差し込みます。
- (3) 一体型防護服を着用し、腰の部分にベルトに通した送排気ユニットを取り付けます。

排気ユニットに貼られている「陰圧」「陽圧」のシールをご確認の上、用途に応じた陰圧方向に合わせてホース口が外側になるように腰に取り付けて下さい。

通常、スタッフは、感染物の挿入を防ぐ為、「陽圧」側に取付けます。反対に、感染症患者にDIFフードを取り付けて搬送する際には、バッグ内の感染物を拡散させないため「陰圧」につなぎます。



「陰圧」側：
ULPAフィルター

「陽圧」側：
送排気ユニット本体

DIFフード取扱説明書

- (4) DIFフードを一体型防護服の上からかぶせます。その際、額部および顎部にDIFフードを固定するバンドがありますので、額部および顎部がずれないように、固定バンドのマジックテープを調整し、前面と顔面との空間を確保します。



- (5) DIFフードのホースと、送排気ユニットを接続します。



- (6) 「FAN」ボタンを押すと稼働します。



4. 廃棄方法

- ① 廃棄が終わるまで、防護服は脱がないでください。
- ② 再利用する送排気ユニット（フィルター部は廃棄）は、消毒薬による清拭が必要です。事前に消毒液と抜き取るガーゼや布を用意してください。
- ③ 感染性廃棄物の全国共通「バイオハザードマーク」がついた廃棄用の密閉式バケツ又は2重にしたゴミ袋（45ℓ以上）を事前に用意してください。詳しくは、環境庁廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル（<https://www.env.go.jp/recycle/misc/kansen-manual.pdf>）を御参考ください。

- (1) 「FAN」の電源をOFFにします。
- (2) DIFフード、チューブ、ULPAフィルターは廃棄します。密閉式の廃棄用バケツ又は2重にしたビニール袋等に入れ、しっかりと閉めます。
- (3) 都道府県又は当該市町村が定めるマニュアルにそって、廃棄します。
(例：廃棄物処理業者へ受け渡す)



参考商品：
ハザードマーク付廃棄バッグ 約45ℓ